

等号つき多重ゼータ値に対する Bowman-Bradley の定理

斎藤新悟

九州大学大学院数理学研究院

2011/01/29

近藤宏樹氏（日新火災海上保険株式会社）
田中立志氏（九州大学大学院数理学研究院）
との共同研究

多重ゼータ値と等号つき多重ゼータ値

定義

k_1, \dots, k_n を正の整数とする ($k_1 \geq 2$).

- 多重ゼータ値 :

$$\zeta(k_1, \dots, k_n) = \sum_{m_1 > \dots > m_n \geq 1} \frac{1}{m_1^{k_1} \dots m_n^{k_n}}.$$

- 等号つき多重ゼータ値 :

$$\zeta^*(k_1, \dots, k_n) = \sum_{m_1 \geq \dots \geq m_n \geq 1} \frac{1}{m_1^{k_1} \dots m_n^{k_n}}.$$

$n = 1$ のときは, Riemann ゼータ関数の特殊値である :

$$\zeta(k) = \zeta^*(k) = \sum_{m=1}^{\infty} \frac{1}{m^k}.$$

多重ゼータ値と等号つき多重ゼータ値

等号つき多重ゼータ値は多重ゼータ値の \mathbb{Q} 線形結合で表せる :

$$\begin{aligned}\zeta^*(k, l) &= \sum_{m \geq n \geq 1} \frac{1}{m^k n^l} = \sum_{m > n \geq 1} \frac{1}{m^k n^l} + \sum_{m = n \geq 1} \frac{1}{m^k n^l} \\ &= \zeta(k, l) + \zeta(k + l).\end{aligned}$$

逆に, 多重ゼータ値は等号つき多重ゼータ値の \mathbb{Q} 線形結合で表せる :

$$\zeta(k, l) = \zeta^*(k, l) - \zeta^*(k + l).$$

例 : $\zeta(2, 2)$, $\zeta^*(2, 2)$

$\zeta(2, 2)$, $\zeta^*(2, 2)$

$$\begin{aligned}\zeta(2)^2 &= \left(\sum_{m=1}^{\infty} \frac{1}{m^2} \right)^2 = \sum_{m,n=1}^{\infty} \frac{1}{m^2 n^2} = \left(\sum_{m>n} + \sum_{m<n} + \sum_{m=n} \right) \frac{1}{m^2 n^2} \\ &= 2\zeta(2, 2) + \zeta(4)\end{aligned}$$

なので

$$\zeta(2, 2) = \frac{1}{2}(\zeta(2)^2 - \zeta(4)) = \frac{1}{2} \left(\left(\frac{\pi^2}{6} \right)^2 - \frac{\pi^4}{90} \right) = \frac{\pi^4}{120}.$$

よって

$$\zeta^*(2, 2) = \zeta(2, 2) + \zeta(4) = \frac{\pi^4}{120} + \frac{\pi^4}{90} = \frac{7\pi^4}{360}.$$

例 : $\zeta(3, 1)$, $\zeta^*(3, 1)$

$\zeta(3, 1)$, $\zeta^*(3, 1)$

$$\begin{aligned}\zeta^*(2, 2) &= \sum_{m \geq n \geq 1} \frac{1}{m^2 n^2} = \sum_{m=1}^{\infty} \frac{1}{m^2} \left(\sum_{n=1}^m \frac{1}{n^2} \right) \\ &= \sum_{m=1}^{\infty} \frac{1}{m^2} \left(\sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{1}{n^2} - \frac{1}{(m+n)^2} \right) \right) = \sum_{m, n=1}^{\infty} \frac{m+2n}{mn^2(m+n)^2} \\ &= \sum_{m, n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2(m+n)^2} + 2 \sum_{m, n=1}^{\infty} \frac{1}{mn(m+n)^2} \\ &= \zeta(2, 2) + 2 \sum_{m, n=1}^{\infty} \left(\frac{1}{n(m+n)^3} + \frac{1}{m(m+n)^3} \right) \\ &= \zeta(2, 2) + 4\zeta(3, 1).\end{aligned}$$

$$\therefore \zeta(3, 1) = \frac{1}{4}\zeta(4) = \frac{\pi^4}{360}, \quad \zeta^*(3, 1) = \zeta(3, 1) + \zeta(4) = \frac{\pi^4}{72}.$$

多重ゼータ値の線形関係式

上で見たように、多重ゼータ値の間には数多くの関係式がある。

$k \geq 2$ に対して \mathbb{Q} ベクトル空間 $\mathcal{Z}_k \subset \mathbb{R}$ を次で定義する：

$$\mathcal{Z}_k = \text{span}_{\mathbb{Q}} \left\{ \zeta(k_1, \dots, k_n) \mid \begin{array}{l} k_1 \geq 2, k_2, \dots, k_n \geq 1, n \geq 1, \\ k_1 + \dots + k_n = k \end{array} \right\}.$$

このような (k_1, \dots, k_n) の個数は 2^{k-2} 個。

予想 (Zagier)

数列 $(d_k)_{k \geq 2}$ を $d_2 = d_3 = d_4 = 1$, $d_k = d_{k-2} + d_{k-3}$ ($k \geq 5$) で定めると、

$$\dim_{\mathbb{Q}} \mathcal{Z}_k = d_k.$$

$d_k \doteq 0.41149 \cdot 1.3247^k \ll 2^{k-2}$ なので、この予想は多重ゼータ値の間に数多くの関係式が存在することを意味している。

寺杉友秀, Deligne-Goncharov は代数幾何を用いて $\dim_{\mathbb{Q}} \mathcal{Z}_k \leq d_k$ であることを証明した。

π ベキの有理数倍になる多重ゼータ値

$\zeta(2k) = \zeta^*(2k) \in \mathbb{Q}\pi^{2k}$ であることはよく知られている。
上で見たように、 $\zeta(2, 2), \zeta^*(2, 2) \in \mathbb{Q}\pi^4$ である。
これらの一般化として、次が知られている：

命題

$$\zeta(\underbrace{2k, \dots, 2k}_n), \zeta^*(\underbrace{2k, \dots, 2k}_n) \in \mathbb{Q}\pi^{2nk}.$$

上で見たように、 $\zeta(3, 1), \zeta^*(3, 1) \in \mathbb{Q}\pi^4$ である。
この一般化として、次が知られている：

命題

$$\zeta(\underbrace{3, 1, \dots, 3, 1}_{2n}), \zeta^*(\underbrace{3, 1, \dots, 3, 1}_{2n}) \in \mathbb{Q}\pi^{4n}.$$

Bowman-Bradley の定理

$$\zeta(\underbrace{2, \dots, 2}_m) \in \mathbb{Q}\pi^{2m}, \quad \zeta(\underbrace{3, 1, \dots, 3, 1}_{2n}) \in \mathbb{Q}\pi^{4n}.$$

これらの共通の一般化として, Bowman-Bradley は次を示した :

定理 (Bowman-Bradley)

$\underbrace{2, \dots, 2}_m$ と $\underbrace{3, 1, \dots, 3, 1}_{2n}$ を「シャッフル」して得られるすべての index に対する多重ゼータ値の和は $\mathbb{Q}\pi^{2m+4n}$ に属する.

例えば $m = 2, n = 1$ のとき,

$$\begin{aligned} &\zeta(2, 2, 3, 1) + \zeta(2, 3, 2, 1) + \zeta(2, 3, 1, 2) \\ &\quad + \zeta(3, 2, 2, 1) + \zeta(3, 2, 1, 2) + \zeta(3, 1, 2, 2) \in \mathbb{Q}\pi^8. \end{aligned}$$

主定理

Bowman-Bradley の定理の等号つき多重ゼータ値版が主定理である :

定理 (近藤宏樹・S・田中立志)

$\underbrace{2, \dots, 2}_m$ と $\underbrace{3, 1, \dots, 3, 1}_{2n}$ を「シャッフル」して得られるすべての index に対する等号つき多重ゼータ値の和は $\mathbb{Q}\pi^{2m+4n}$ に属する.

注 :

- $m = 0, 1$ の場合は宗田修一によって示されていた.
- $m = 2$ の場合は今富耕太郎・田中立志・田坂浩二・若林徳子によって示されていた.
- 後に一般の m に対する定理の別証明が田中立志によって与えられた.

証明の概略

$\underbrace{2, \dots, 2}_m$ と $\underbrace{3, 1, \dots, 3, 1}_{2n}$ を「シャッフル」して得られるすべての index に

対する多重ゼータ値の和，等号つき多重ゼータ値の和をそれぞれ $S(m, n)$, $S^*(m, n)$ と書く．

BB より $S(m, n) \in \mathbb{Q}\pi^{2m+4n}$ ．示すべきことは $S^*(m, n) \in \mathbb{Q}\pi^{2m+4n}$ ．
非可換多項式に対するある等式を組合せ論的に証明することで

$$S^*(0, n) = \sum_{j+k=n} S(0, j) \zeta^*(\underbrace{4, \dots, 4}_k),$$

$$S^*(1, n) - 2 \sum_{j+k=n} S^*(0, j) \zeta(4k+2) = - \sum_{j+k=n} S(1, j) \zeta^*(\underbrace{4, \dots, 4}_k),$$

⋮

と続く等式を導き，帰納的に定理を証明する．